



2010年度までの環境行動計画と2009年度の成果

リコーグループ16次環境行動計画（2008年度～2010年度） ※ 達成目標年度の記載がないものは2010年度が目標。

1

資源循環型社会に向けた資源の有効利用

- 1) 省資源を目指した環境技術開発 21ページ
 - ・事業および社会全般の新規資源投入量削減に貢献する省資源技術開発を行う
- 2) 製品への新規投入資源の削減に向けた資源循環の拡大と資源の有効利用 27ページ
 - ① 部品リユースの促進
 - ・使用済み製品からのリユース部品使用質量を2010年度までに1,910トンに向上（日本）
 - ・使用済み製品からのリユース部品使用質量を2010年度までに6,000トンに向上（海外）
 - ② PCMR（プラスチック・クローズド・マテリアル・リサイクル）の促進（日本）
 - ・再生プラスチック使用質量の2010年度目標の達成。2010年度目標：750トン
 - ③ 使用済み製品の資源循環量の拡大（海外）
 - ・使用済み製品の資源循環量（再使用量+再資源化量）を2010年度までに16,000トンに向上
 - ④ バイオマス樹脂の製品への活用
 - ・バイオマストナーの製品化
- 3) 生産活動にともない発生する排出物の削減 41ページ
 - ① サーマルメディア事業における資源ロスの削減
 - ・排出物発生量を2006年度比10%削減
 - ② 包装材に関する資源ロスの削減
 - ・国内画像製品の生産包装材の生産量当たりの排出物発生量を2006年度比30%削減
 - ・海外画像製品の生産包装材の生産量当たりの排出物発生量を2007年度比30%削減
 - ③ 重合トナー製造にともなう排出物発生量の削減
 - ・生産量当たり排出物発生量を2007年度比17%削減

2

気候変動問題に対する先行的な環境技術開発と、エネルギー使用を抑えた事業活動の促進

- 1) 省エネルギーを目指した環境技術開発 21ページ
 - ・事業および社会全般のCO₂削減に貢献する製品や生産プロセスの省エネ技術開発を行う
- 2) 製品の省エネ性能の向上 24ページ
 - ① リコー省エネ目標の達成
- 3) 生産活動にともない排出する温室効果ガスの削減 37ページ
 - ・2010年度までにCO₂排出量を1990年度比12%削減（リコーおよび国内生産会社）
 - ・2010年度までにCO₂排出量を1998年度比10%削減（海外生産会社）
 - ・2010年度までに半導体事業分野のCO₂以外の温室効果ガスを1995年度比10%削減
- 4) 非生産活動にともない発生する温室効果ガスの抑制 48ページ
 - ・CO₂排出量を2006年度実績以下に抑制（リコーおよび国内非生産会社）
- 5) 物流にともない発生するCO₂排出量の削減 53ページ
 - ・物量原単位で前年比1%以上改善
- 6) 仕入先企業へのCO₂排出量削減活動の展開 35ページ
- 7) お客様先での環境負荷削減への貢献 50ページ
 - ① 省エネ・両面機能の活用状況の把握と利用率の向上
- 8) 社内での環境機能の利用促進 48ページ
 - 省エネ機能の社内利用促進

3

環境安全性の高い製品づくり・事業活動に向けた化学物質管理の強化

- 1) 製品環境性能の向上 31ページ
 - ① 化学エミッション低減対策の推進
 - ・オゾン・粉じん・VOC類のリコー自主基準の遵守
- 2) 化学物質に関するリスクマネジメントの強化 44ページ
 - ① グローバルでの化学物質リスクマネジメント体制の構築
 - ② 環境影響化学物質の削減
 - ・環境影響化学物質の使用量を2000年度比マイナス30%以下に抑制（リコー生産事業所および生産会社）
 - ・環境影響化学物質の排出量を2000年度比マイナス80%以下に抑制（リコー生産事業所および生産会社）
 - ③ 環境負債の推定と財務会計への反映
 - ・連結決算対象会社の所有地において、PCBs・アスベストの環境負債が推定できている
 - ・リコーグループとして、環境負債が財務会計に反映されている
- 3) 製品含有化学物質マネジメントのレベルアップ 31ページ
 - ① REACH規則への対応
 - ・REACH規則への対応に必要な管理、情報伝達の仕組みの強化

4

生物多様性の保全

- 1) 地球環境の再生能力を高めるための生態系保全活動の推進 72ページ

進捗状況(2009年度実績)

▶ さらなる製品の小型化・長寿命化を可能にする技術開発を進めるとともに、100%のリユース・リサイクルを目指した再生資源の活用技術、枯渇リスクの高い材料の削減・代替技術の開発に着手しました。

▶ リユース部品使用質量の実績は、1,703トンとなりました。

▶ リユース部品使用質量の実績は、6,934トンとなりました。

▶ 再生プラスチックの使用質量の実績は960トンとなりました。

▶ 資源循環量の実績は、24,712トンとなりました。

▶ 2009年11月にバイオマストナーを採用した デジタル複合機 imagio MP 6001GP を発売しました。

▶ 排出物発生量5.7%削減。

▶ 御殿場事業所：24.4%削減。 東北リコー：16.3%削減。 リコーエレメックス：26.9%削減。

▶ RIF：3.3%削減。 RPL：5.6%増加。 REI：19.3%削減。

▶ 生産量当たり排出物発生量 23.3%削減。

▶ さらなる「製品の使いやすさ」と「省電力化」を両立する製品省エネ技術、あるいは熱利用効率を最大化する生産プロセス技術などを開発しています。

▶ 複写機、複合機、プリンターともに省エネ目標を達成した製品を発売しています。

▶ 排出総量13.5%削減。※M&Aによる事業成長と電力換算係数変動によるCO₂増加分については、CDMによる対応を前提としています。この考え方にに基づき、リコープリンティングシステムズおよび山梨電子工業は事業成長分として扱われています。

▶ 15次環境行動計画(2005～2007年度)と同じバウンダリーでは、9.2%削減。事業成長分(リコーサーマルメディア)を含めると7.6%増加。

▶ CO₂以外の温室効果ガスの排出量47%削減。

▶ 国内非生産会社排出総量9.5%削減。

▶ 輸送トンキロ当たりのCO₂排出量、前年度比2.6%改善。

▶ モデル仕入先企業と2009年度目標を設定し、社内実践ノウハウを提供するなど、仕入先企業とともにCO₂削減活動を展開しました。

▶ 省エネモードの活用向上を目指しお客様先での提案活動を行いました。国内・海外ともに2010年度も引き続き製品使用時の環境負荷の見える化と連動した環境負荷削減提案活動を実施する予定です。

▶ 2009年度目標を設定し達成しました。(省エネモード設定維持率) ・10秒復帰機(10秒復帰モード搭載機含む)目標：100%⇒実績：100% ・10秒復帰機以外目標：90%⇒実績：99%

▶ 製品の環境影響化学物質排出については2007年1月施行のブルーエンジェル基準にも準拠できるよう対応し、2009年度販売の複写機、複合機およびプリンター、17シリーズの機種群においてオゾン、粉じん、VOC類のリコー基準を達成しました。

▶ LCAの製造プロセスにおいて、周辺住民の健康に対するリスク管理体制がグローバルに構築されました。

▶ 溶剤レス化、環境影響度の低い物質への代替、溶剤のリサイクルなどで、マイナス74%に抑制しました。

▶ 環境影響度の低い物質への代替、除害装置などで、マイナス85%に抑制しました。

▶ 2008年度からの除却・新設を考慮するとともに、新規加入の連結決算対象会社も含め、グループワイドで推定されています。

▶ リコーグループの資産除去債務の影響額を把握・分析し、会計監査で確認を受けました。

▶ 2008年度構築した仕組みを利用し、仕入先企業のご協力のもと情報伝達の実施を行いました。また、情報伝達の迅速化と精度向上を図るため、リコーグループにおいてキーマン教育を実施しました。

▶ リコーグループの対象組織(99組織)全てで、生態系保全活動を実施しました。